

南陽市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

令和5年度年次報告書＜概要版＞

1 進捗管理の目的

温室効果ガス削減目標を達成するため、行政における取組や市民・事業者の方々の取組を推進または支援するための施策について進行状況を把握することを目的としています。

市域全体の二酸化炭素排出量を基準年度と比較して目標値にどれほど近づいているか。また、計画内で設定している指標の進捗を管理することで今後力を入れて取組むべきことを整理し、次年度以降の取組につなげていきます。

2 報告年度

今回報告する「温室効果ガスの報告年度」については、環境省が公表している自治体排出量カルテを基に市域内の二酸化炭素排出量を把握しているため、公表されている値で最新である2021（令和3）年度の実績値を使用し、取組の結果については2023（令和5）年度分を報告するものとします。

報告年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
温室効果ガスの報告年度	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)
取組報告年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)

3 進捗管理表の見方と評価

温室効果ガス排出量削減に向けた取組結果については、温室効果ガスの削減量と計画の指標を用いて進捗状況を評価し、公表します。

対象年度毎の目標値は目標値を2018（平成30）年度から2030（令和12）年度までの年数（12年）で分割し、その数値を計画開始から経過した年数分足していくことで目標値を設定しました。

指標の達成率については、対象年度の目標値及び実績値を用いて算定しています。

指標項目	2018(平成30)年度 現状値	対象 年度目標	対象 年度実績	達成率	進捗 評価	次年度目 標
目標指標の内容	現状値	目標値	実績値	%	※	目標値

※進捗評価の目安は以下のとおりです。

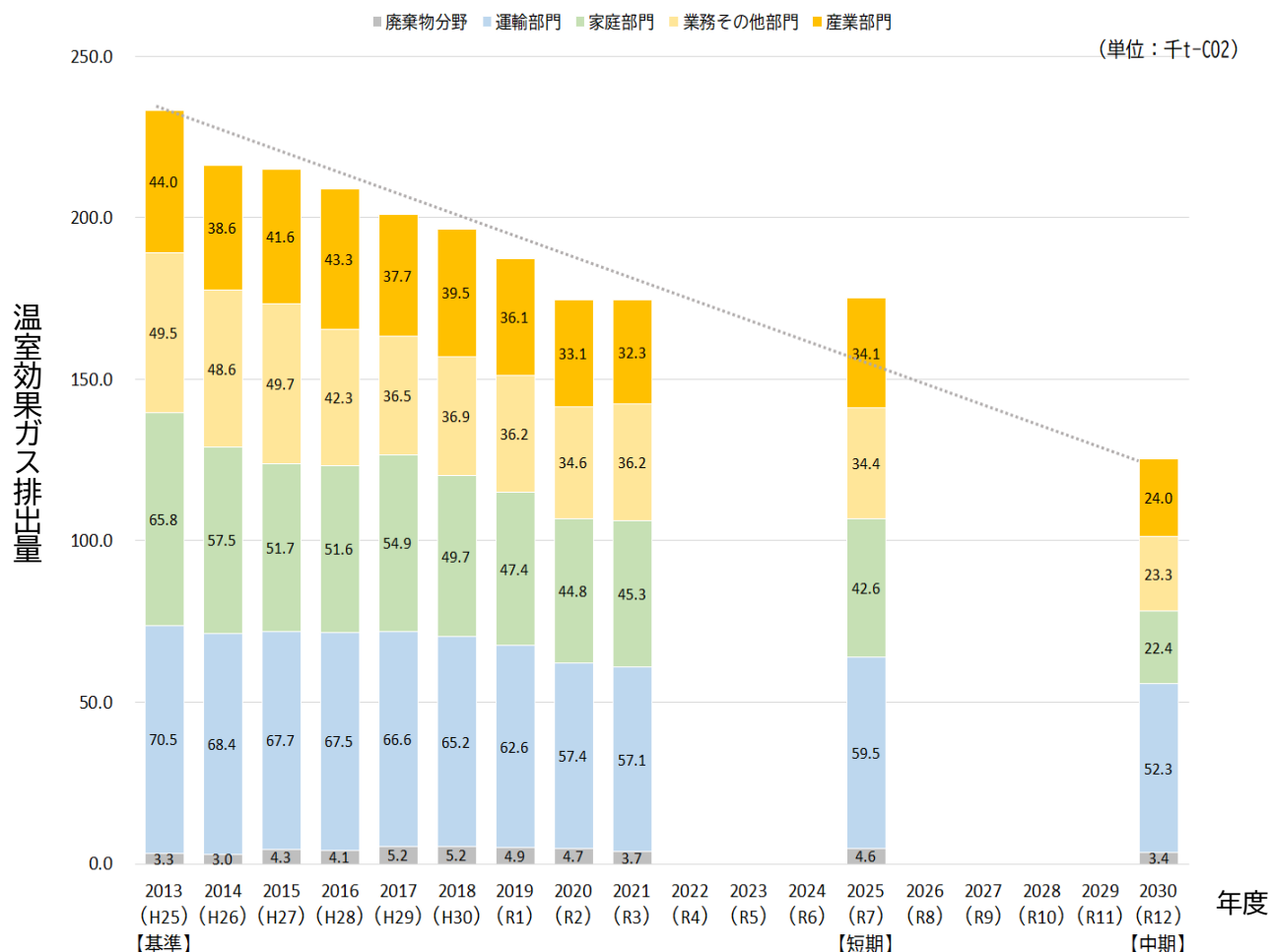
進捗 評価	評価の根拠	進捗 評価	評価の根拠
◎	対象年度目標を達成	△	対象年度目標の2割以上7割未満達成
○	対象年度目標の7割以上達成	×	対象年度目標の2割未満の達成

4 温室効果ガス総排出量

現在把握している最新の温室効果ガス排出量の実績値は2021（令和3）年度のものであります。

2021（令和3）年度の温室効果ガス排出量は、174.6千t-CO₂で、基準年度である2013（平成25）年度と比べると25.1%減少し、短期目標である2025（令和7）年度の目標値（25%削減）を達成しています。

◆温室効果ガス排出量の推移



年度	2013 (H25) 【基準】	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7) 【短期】	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12) 【中期】
産業部門	44.0	38.6	41.6	43.3	37.7	39.5	36.1	33.1	32.3				34.1					24.0
業務その他部門	49.5	48.6	49.7	42.3	36.5	36.9	36.2	34.6	36.2				34.4					23.3
家庭部門	65.8	57.5	51.7	51.6	54.9	49.7	47.4	44.8	45.3				42.6					22.4
運輸部門	70.5	68.4	67.7	67.5	66.6	65.2	62.6	57.4	57.1				59.5					52.3
廃棄物分野	3.3	3.0	4.3	4.1	5.2	5.2	4.9	4.7	3.7				4.6					3.4
排出量合計 (千t-CO ₂)	233.2	216.1	214.9	208.8	200.9	196.5	187.2	174.6	174.6				175.2					125.5
対象基準年度増減量 (千t-CO ₂)	-	-17.1	-18.3	-24.4	-32.3	-36.7	-46.0	-58.6	-58.6				-58.0					-107.7
対象基準年度増減率 (%)	-	-7.3	-7.9	-10.5	-13.9	-15.7	-19.7	-25.1	-25.1				-25.0					-46.2

※2025年度（令和7年度）及び2030年度（令和12年度）については、計画の目標値を記載・表示しています。

5 温室効果ガス排出量削減に向けた取組結果

●基本方針1 再生可能エネルギーの地産地消の推進の取組結果

指標項目	2018(平成30)年度 現状値	2023(令和5)年度目標	2023(令和5)年度実績	達成率	進捗 評価	2024(令和6)年度 目標
市有施設における温室効果ガス排出量	3,192.42 t-CO ₂	2,671.57 t-CO ₂	2,419.07 t-CO ₂	110%	◎	2,567.23 t-CO ₂
市内の再生可能エネルギーの導入量	7,274 kW	25,356 kW	8,591kW	34%	△	28,973kW
公共施設における太陽光発電設備導入量（設備容量累計）	83.4 kW	1,073 kW	200 kW	19%	×	1,271kW
木質燃料利用促進事業補助金*の補助件数（累計）	69 件	124 件	116 件	94%	○	135 件
再生可能エネルギー導入やエネルギーの地産地消に関する普及啓発の実施回数	—	2 回/年	2 回/年	100%	◎	2 回/年

※木質燃料利用促進事業補助金：南陽市が実施する補助事業。木材利用を促進し、森林資源循環型ライフスタイルの普及・定着を目的として、市内の住宅、事業所、農業用施設等に木質ペレットや薪を燃料として使用する燃焼機器（薪ストーブ・ペレットストーブ等）の購入・設置に係る費用の一部を助成する補助制度のことです。

●基本方針2 省エネルギーの推進とライフスタイルの転換の取組結果

指標項目	2018(平成30)年度 現状値	2023(令和5)年度目標	2023(令和5)年度実績	達成率	進捗 評価	2024(令和6)年度 目標
道路照明灯のLED化率	0%	29%	24%	83%	○	35%
公園灯などのLED化率	10%	48%	31%	65%	△	55%
防犯灯などのLED化率	47%	69%	91.5%	133%	◎	73%
新築着工件数におけるZEH住宅の割合	—	42%	0%	0%	×	50%
省エネ行動の啓発回数	6 回/年	7 回/年	7 回/年	100%	◎	7 回/年

※ZEH（ゼッチ）：高い断熱性能をベースに、高効率機器やエネルギー管理システムによる「省エネ」、太陽光発電などによる「創エネ」を組み合わせることで、一次エネルギーの年間消費量がゼロになる住宅を指します。

●基本方針３ 脱炭素型のまちづくりの取組結果

指標項目	2018(平成30)年度 現状値	2023(令和5)年度目標	2023(令和5)年度実績	達成率	進捗 評価	2024(令和6)年度 目標
年間の新車登録台数に占めるクリーンエネルギー自動車、ハイブリッド自動車導入割合	19.6%	41%	29.8%	73%	○	45%
森林の整備	420 ha	468 ha	454 ha	97%	○	478 ha

※クリーンエネルギー自動車：従来のガソリン自動車、ディーゼルエンジン自動車と比較して走行中の二酸化炭素排出量が少ない電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車、クリーンディーゼル自動車の総称のことです。

●基本方針４ 循環型社会の形成の取組結果

指標項目	2018(平成30)年度 現状値	2023(令和5)年度目標	2023(令和5)年度実績	達成率	進捗 評価	2024(令和6)年度 目標
市民１人１日あたりのごみ排出量	479 g	424 g	510 g	0%	×	417 g
生ごみ処理機購入補助件数	537 件	619 件	639 件	103%	◎	635 件
リサイクル率(資源化率)	12%	20.2%	8.2%	0%	×	22%

※１ 3R：ごみを削減し循環型社会を形成するために不可欠な取組である Reduce（リデュース：減量）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の総称のこと。各取組の頭文字をとって 3R（スリーアール）と呼ばれます。

6 令和5年度 進捗状況のまとめ

南陽市域の温室効果ガス排出量の評価対象年度は、今回の報告では2021（令和3）年度の実績値となります。

2021（令和3）年度の温室効果ガス排出量は、174.6千t-CO₂で、基準年度である2013（平成25）年度と比べると25.1%減少し、短期目標である2025（令和7）年度までに25%削減を達成しています。特に、家庭部門の二酸化炭素排出量は2013（平成25）年度比で31.2%と大きく減少しており、続いて業務その他部門26.9%減、産業部門26.6%減となっています。短期目標は達成していますが、温室効果ガスの排出量は再生可能エネルギー拡大及び原発再稼働による電力の低炭素化や家電そのものの省エネルギー化等の国全体の動向が要因となり削減されている部分も多い状況です。今後も二酸化炭素排出量を削減し、中期目標値を達成するために本市の取組を計画の指標を基に強化していくことが重要となります。

4つの基本方針での指標達成状況は、15項目中◎（達成）が5項目、○（7割達成）が4項目、△（7割未満の達成）が2項目、×（未達成）が4項目となりました。中でも達成率が低い△及び×となった項目を中心に言及します。

「市内の再生可能エネルギーの導入量」は現状値である2018（平成30）年度からほぼ変わらず、「公共施設における太陽光発電設備導入量」については、目標を大きく下回る結果となりました。

再生可能エネルギーの導入については、現在太陽光発電が導入の主流になっていますが、市では市民・事業者の方々へ再生可能エネルギーの導入に関してメリット・デメリットを分かりやすく伝えられるよう、国の動向を見ながら情報収集と適切な周知に注力していきます。

公共施設における太陽光発電設備導入については、2023（令和5）年度に市庁舎へ太陽光発電設備を設置したこと等により増加はしているものの、目標値には及びませんでした。市保有施設へ二酸化炭素を排出しない電気を電力会社より導入した事例もあり、温室効果ガスの排出量は順調に削減できています。今後、様々な再生可能エネルギー導入の可能性が広がる中太陽光発電設備の導入だけではなく、再生可能エネルギーの導入という面で指標を見直すことが必要です。

「新築着工件数におけるZEH住宅の割合」については、2023（令和5）年度内は実績が0であり、ZEH住宅建設のハードルが高いことが分かります。「公共施設における太陽光発電設備導入量」とともに計画の中間見直し時（2025（令和7）年度）に指標の内容を検討することも必要です。

「防犯灯などのLED化率」については進捗率が133%と目標値を超えている状況です。今後目標を変更することも計画の中間見直し時（2025（令和7）年度）に検討していきます。「公園灯などのLED化率」は上昇傾向にあるため、今後も目標達成を目指し取組を進めていきます。

「年間の新車登録台数に占めるクリーンエネルギー自動車、ハイブリッド自動車導入割合」は、進捗率73%と目標値には及ばない結果となりました。日本政府は2035（令和17）年度までに自動車を100%電動化すると発表しており、今後更に導入割合は増加していくと見込まれます。

「市民1人1日あたりのごみ排出量」、「リサイクル率（資源化率）」については、どちらも達成率が0%であり、目標値に近づくことができていない状況です。世帯数の増加に伴い、ごみ排出量が増加している傾向があります。2024（令和6）年度より、広域事業として雑がみのリサイクル率向上に向けた雑がみ保管袋を作成し、環境イベント時等に配布しています。これらを始めとした更なるごみ減量・リサイクル推進に向けた取組による改善を目指します。

進捗状況を全体として振り返ると、2021（令和3）年度の温室効果ガス排出量は2025（令和7）年度の短期目標値を達成していますが、「市内の再生可能エネルギーの導入量」や「新築着工件数におけるZEH住宅の割合」、「市民1人1日あたりのごみ排出量」等、市民・事業者の方々に実践していただく必要がある指標は達成率が低い状況です。再生可能エネルギーの個人・企業としての導入はハードルが高い部分が多い状況ではありますが、市として計画の指標達成に向けた適切な広報・周知に力を入れた取組を行います。また、今後更に温室効果ガス排出量を削減するため、市・市民・事業者が一体となり中期目標値・長期目標値の達成を目指していきます。

南陽市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）令和５年度年次報告書（概要版）

発 行 令和６年１２月

発 行 者 南陽市 市民課

山形県南陽市三間通 436 番地の 1 TEL 0238 (40) 3211 (代)
